らいふあっぷ習志野

らいふあっぷ　通信

2016 October Vol. 5

lifeup@jigyoudan.com

津田沼 5-12-12　サンロード津田沼６階　TEL047-453-2090

夏休み学習支援ではざまざまな取り組みを行いました！

8月3日～12日
夏休み隙間対策
（自習の場提供）
8月15日～31日
夏期講習
8月16日
高校生同窓会
高校生による講演会
8月19，20日
ﾌﾘｰﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
8月20日
東邦大学見学ツアー

高校生同窓会

三月に中学を卒業した現高校一年生も高校に入学し、初めての夏休み。フリー★スタディとして同窓会を開くことになった。最初は昼食をとりながらの歓談の時間をとった。その後、高校生への質問タイムでは高校を選択するための基準や高校に入って大きく変わったことなどの質問に対して、自分の意見を正確に答えられるようになっていた。学校内に購買や食堂、自動販売機があることや軽音楽部があることは中学生には驚きの内容であったらしく反応も良かった。最後にはクイズ大会をおこなった。その頃には同じ場所に二，三時間いたこともあり、初めて会う高校生とも打ち解けてくる生徒も増え、各自で質問しているシーンも見受けられて良かったと考える。

講師　岡澤彰吾

ミニ講座

受講生の読解力向上を図るため、講習で本一冊の読み聞かせを数回に分けて行いました。取り上げたのは、手島悠介著「星になった子ねずみ」です。主人公は優しくて勇敢な子ネズミ、時代は第二次世界大戦末期、舞台は鹿児島の特攻隊基地から東京、そして学童疎開先の宮城県にまで及びます。最終回には皆に感想文を書いてもらいました。戦争の悲惨さはもとより、お互いに助け合うことの大切さなどを強く感じたようです。

講師　国包章一

フリーディスカッション

夏期講習の八月十九日・二十日の二日間を利用して子どもたちによるディスカッションを行いました。題材としては「教室の良いとこ、悪いとこ」「よりよくするために？を選びました。グループを三つに分けて一年生～三年生まで混合グループでした。それぞれの班に彼らなりの色が出ていて、とても面白いものとなりました。企画した私自身、一年生にはまだ難しいのかなと思っていましたが、三年生の影に隠れることなく自分の意見を主張している姿を見るとやはり中学生だなと実感しました。このように彼らの意見・主張ばかりでなく、取り組む姿勢や、一人ひとりの特性など新たなる一面を発見できたことは私たち講師のさらなるスキルアップにつながると思います。充実した二日間過ごすことができました。

講師　岡本千裕

東邦大学見学

今回で二回目となる大学見学ツアーは、理学部教養科教育学教室・教員養成課程教務主任新保教授にご尽力いただき開催しました。中学生では機会の少ない大学見学は、人気企画の一つであり、日頃接している講師が通う学校を見学して、自分の将来像に繋がるよう企画しました。今年度は、メインの研究室見学と共に、体育館での体験学習も行いました。研究室見学では、普段学校では見聞きできないものに触れ、体験学習では、生徒と共に講師も楽しく活動できました。次年度以降も継続できればと考えています。

講師リーダー中野佑樹

自習時間
8月3日～12日
（土日を除く）
朝9時～夜8時
通常の約60%利用
夏休みの居場所



４月よりたくさんの研修やイベントに参加し、自己研鑽しています！



全国の生活困窮者自立支援事業相談支援員を対象に、厚生労働省による生活困窮者自立支援制度人材養成のための担当別研修が開かれています。

主任相談員養成研修

今までの社会保障制度の特徴は「人を制度が支える」という、いわゆる給付する制度であったが、生活困窮者自立支援制度は「人が人を支援する」といういわゆる「人づくり・地域づくり・地域力」によって人を支える制度であること。生活困窮者の複合的な問題は、その人だけの問題解決（ケースワーク）として係わるのではなく、地域社会の中で問題解決（ソーシャルワーク）していこうとする制度設計になっているため個人へのサービス提供で解決するものではなく、地域の支援体制作りにより、地域の中で生活が可能になるたてつけである。まさにソーシャルワークの技術が求められる相談支援事業であること。「つながる・つくる」の重要性を再確認した。



所長　久保田貴子

就労準備支援事業従事者養成研修

就労準備支援事業の基本的な考え方、支援方法、社会資源の活用と開発について学ぶことを目的に、全国から一二〇名ほどの参加者で開催された。

実践団体の報告形式による講義とグループワーク演習を交えた内容で、支援員の日々の取り組みや直面している事について話を伺うことができた。講師の方々は、「就労準備支援事業は、既存の制度や方法がないため、色々な可能性を探れる」と話された。社会資源の開発は、担当者の力やコネクションによるものが大きいと思われ、受講者達はグループディスカッションや交流会で、積極的な情報交換を行い、つながりを大切にしようとしているのが伝わった。

就労支援担当　公文美奈子

その他にも様々、研修を開催またはスキルアップを目指しイベントに参加しています。

企業合同説明会

六月～八月にかけて四回の就職希望者向け企業合同説明会へ参加。

就職希望者の方が真剣に企業の説明に耳を傾けている姿が印象的であった。参加者，企業の思惑が一致することが就労に結びつくと感じた

就労支援員　青芳収

生活困窮者自立支援制度住宅支援シンポジウム

四月二十九日(祝)に開かれたシンポジウムに参加しました。生活困窮者自立支援法に基づく一時生活支援事業や困窮者向けのシェアハウスの運営を行なう支援の現場の方々から、暮らしの基盤となる住まいの大切さについてのお話を伺いました。住まいの安定があってこそ、公的サービスを受けられる環境の中、就労・家族関係・精神の安定が図られることを学びました。

家計相談支援員　徳野博子



独自に企画して研修を行い、足りない知識を学ぶことでより一層ご相談者に寄り添える力をつけていきたいと考えています。今回は全ての取り組みが掲載できず残念です。またの機会にご紹介します。

千葉県生活困窮者支援実務者ミーティング

六月二十六日(日)開催　第一部では「よりそいホットライン」の全国の実施状況，具体的な事例から生活困窮者支援との協働の可能性についての報告があった。

第二部では小グループに分かれて，日ごろの支援についての課題や悩みについて話し合い共有を行った。

就労支援員　青芳収

債務整理の基本を学ぶ

七月二十五日（月）

生活困窮者自立支援相談窓口に訪れる方に生活支援を行いつつ法律家に債務の整理を依頼していくのですが、基本的な法的な債務処理についての基礎知識を付けるために千葉県民司法書士事務所の阿久根司法書士に講義を行って頂きました。利息制限法、出資法、貸金業法の概要から始まり、過払い金の話や基本的債務処理方法の特定調停、任意整理、個人民事再生、自己破産の考え方、それぞれのメリット、デメリットについてお話を伺いました。債務の状況を勘案しながら、適切な法律家に繋いでいく上でも債務整理の基本を学ぶことはとても大切であることと思われました。

相談支援員　田中達也